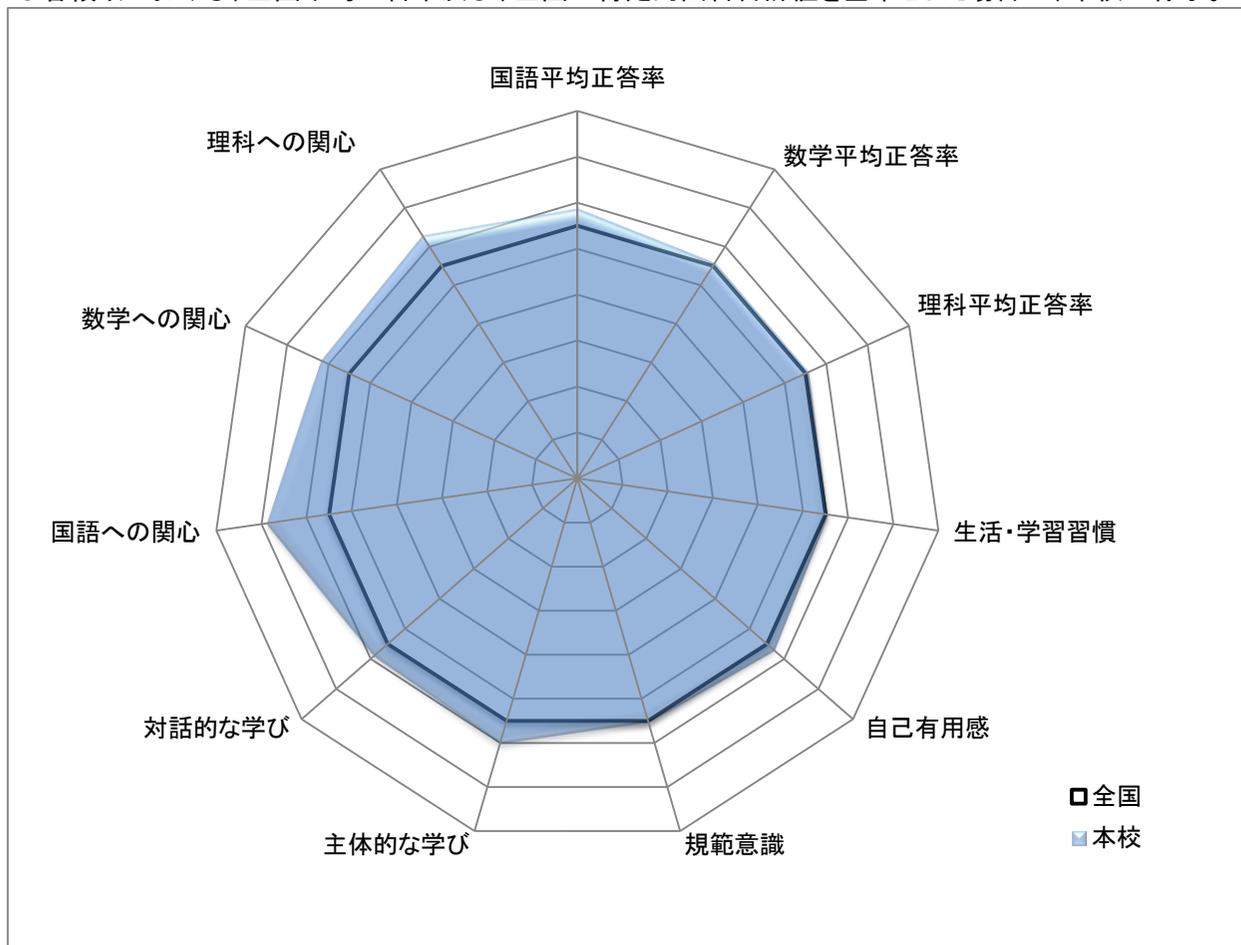


●各領域における、全国平均正答率及び、全国の肯定的回答合計値を基準とした場合の、本校の様子。



《現状把握》

国語は話す聞くこと+5.5、書くこと+9.3、読むこと+5.9だった。数学は数と式+1、図形-1、関数+2.5、データの活用+1.4だった。理科はエネルギー+0.3、粒子+1、生命+1.9、地球-0.3だった。国語は全体的に全国の平均を上回っており、数学・理科では出題分野によって多少の偏りはあるものの、概ねどの分野でも平均的な結果となった。

《授業改善のポイント》

国語では書くことに重点を置いて、意見文や作文の指導を推進する。また作品の解釈について意見を共有するなどして、他者の意見を聞き自己の考えの一助となるよう今後も指導していく。数学では、少人数授業によるひとり一人に細かな指導を行い、教え込みではなく問題解決型の授業や小グループによる学び合いの実践を継続して行う。また、自分の考えを発表・説明する時間の確保に努力していく。理科では振り返りシートを活用して自己の考察を振り返る機会を設け、体系的な学習の定着に努めていく。

《チャートの特徴》

全国平均正答率と比較すると、国語+5%、数学+0.6%、理科+0.7%と、全教科で全国平均を上回る結果になった。さらに、全教科とも教科への関心が高い(全国比で国語1.27倍、数学1.13倍、理科1.15倍)。その高さと同様に正答率が比例しているものと考えられる。また「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか」の問いに対する肯定的回答が全国比の1.17倍高く、1年次より取り組んできたSDGs学習での調べ学習や企業インタビューなどの活動で培ったものを意識していることが伺える。

《家庭・地域への働きかけ》

授業の振り返りシートや定期考査の学習計画表などを通して学習習慣の確立を図る。進路に関する情報を積極的に発信し、関心を高めるよう努める。